

GISシステム導入の有無

平成14年度に導入（ずいぶん前のことなので、詳細については不明な点も多い）

① 導入までに検討したこと

導入目的、活用範囲（将来的に全庁での活用を見据えて）

③ 導入までに苦労したこと

（予算獲得に向け）費用対効果の整理、全庁活用を見込むも当時はスタンドアロン運用

④ 使用に当たっての研修体制等

特に研修等は行っていない。その都度、前任者、周りの職員、委託業者等に使い方を聞いている。

⑤ システムの更新の有無

近年中に現行版から最新版にアップデート予定

活用しているレイヤ

○ 地番図

【更新頻度、更新方法等】

毎年、地籍調査実施地区及び分合筆等のあった土地に係る地番図の更新を行っている。（年間4, 200筆）

更新作業は随時、更新（の一括反映）は年一回（ただし、作業済の情報は随時確認可能）

○ 写真レイヤ

【撮影種類】 航空写真

【更新頻度・撮影時期】 6年に1回・12月頃

【他部局／他市町村との連携の有無とその理由】 無

○ 地形図（DM、都市計画基図等）

【更新頻度、更新方法等】 更新毎（数年に1回）

○ 住宅地図

【更新頻度、更新方法等】 不明

○ 法規制関係（都市計画、道路台帳、防災図面等）

【データ（図面等）の種類】 都市計画図全般

○ 評価替え関係（状況類似、標準宅地、路線）

【路線価試算機能（GIS画面上での自動計算機能）、画地計算機能の有無等】

路線価試算機能は委託しているため不明、画地計算機能は有

○ 家屋関係（台帳情報、家屋現況図等）

【更新頻度、更新方法等】 毎年度（年間500棟）

実地調査手法（土地評価のため）

【調査に当たっての準備】

- ① 調査に当たっての準備方法
GISから調査地の航空写真と地番図を合わせたもの、住宅地図を印刷する。
- ② 用意する物
地番図、住宅地図、カメラ
- ③ 調査記録の方法
現地で写真を撮り、庁舎に戻って資料作成を行う。
- ④ 資料紛失防止対策
その日調査する分の資料のみを持ち歩く。

業務委託の有無

【委託内容の概要】

地区区分・標準宅地選定・路線価付設等

【委託のメリット、デメリット】

コストは嵩むが、経験の浅い職員でも評価替え作業を着実に行うことができる。

その他の技術活用の有無

【今後導入を検討している技術等】

衛星写真の活用

→ 現在、解像度30センチメートルと航空写真と大きく遜色のないものが入手可能となっている。安価で購入できることから、取得回数を増やすなど課税資料としての更なる活用を検討する。